

事例4

<事例概要>

- ・肝切除術後、十二指腸穿孔による汎発性腹膜炎により緊急手術となった患者。門脈血栓に対しヘパリン使用中。
- ・死因は、カテーテル抜去に伴う右胸腔内出血（推定）。死亡時画像診断（Ai）無、解剖無。
- ・手術室で全身麻酔継続のまま、全身管理目的でリアルタイム超音波ガイド下に右内頸静脈から中心静脈カテーテル（ダブルルーメン）を挿入した。胸部X線でカテーテルの先端位置に問題ないと判断し、輸液を開始した。翌朝、胸部X線で右肺透過性低下、経皮的動脈血酸素飽和度（SpO₂）低下を認め、輸液を中止、胸腔ドレナージを施行した。胸部単純CTで、カテーテル先端が胸腔内に逸脱しているが、動脈穿刺ではないと判断し、カテーテルを抜去したところ、その数分後にショック状態となり、緊急開胸術を施行したが死亡した。